

## 実践事例1

## 人は一人では生きられない

三木市立緑が丘東小学校第6学年

## 1 テーマ

人は一人では生きられない

## 2 実践のねらい

周囲の自然、人や自分自身と向き合い、それらとの接点で自己を認識するというをとおして、人間が一人ではなく、支え、支えられて生きている存在であることを実感する。

## 3 テーマ設定の理由

## (1) 本校の概要と児童生徒の実態

本校は、住宅街の中にあり、各学年3学級で、市内では最大規模の学校である。しかし、子どもたちの様子を見ると、人数は多いが子どもどうしや地域の人との結びつきは濃厚とは言えない。行事や教科等の授業で目立つと集団から阻害されるのではないかと恐れている子どももいる。

そうした子どもたちだからこそ、皆で同じ目標を持ち、それに迫る努力を一緒にして、得られた成果をとともに喜ぶという体験が不可欠であると考えた。変動の激しい世の中で自分を見失わずに生きぬく子に育てるためには、一人で勝手には生きられないということを教えなければならぬし、一緒に生きる仲間・先輩・後輩が確かにいるという安心感も与えたい。

6年生ならではの学校生活を送る過程で、自然や人とのつながりの中で成長する自分を認識し、周囲に感謝できるようになって、卒業させたいと考え、「人は一人では生きられない」というテーマを設定し、本プログラムを実践した。

## (2) 指導のポイント

## 【感動の体験】

- ・自分にとっての身近な生き物の命を大切に感じさせる。
- ・友達や先生とより高次の目標を持って懸命に生き、達成感を得させる。

## 【感性を育む】

- ・生き物にも自分にも命が等しく一つ授けられていて、皆がその命を全うしようとする本能を持つことに気づかせる。
- ・学校行事等で達成感を得る過程で、友人や保護者、先生、地域の方々への感謝の気持ちを抱かせる。

## 【想像力の育成】

- ・自分が「良い」と思うことであっても他者にとっては不都合なことがあり、また自分(他者)の喜びが、他者(自分)の喜びになることもある、ということに気づかせ、自分の感情や状態を客観視しようとする姿勢、他者の感情や状態を想像しようとする姿勢を持たせる。

## 4 事前

## (1) 先生の準備

- ・旭山動物園にかかわる資料を読み、現地を視察する。
- ・歴代の6年生の、運動会・連合体育祭・修学旅行・音楽会等での様子が分かるDVDを作成する。

## (2) 教育課程上の位置づけ

- ・道徳
- ・特別活動
- ・総合的な学習の時間

## (3) 子どもたちの準備

- ・これまで生き物と接してきた体験を振り返る。
- ・5年生までの自分が諸行事等にどう臨んできたか、また、6年生の姿がどう見えていたかを振り返る。

## (4) 家庭・地域との連携

- ・家庭や地域の人々に対し、命の大切さを実感させる教育を進めていくねらいや趣旨を伝え理解と協力を求める。
- ・学習の様子を通信等で紹介し、6年生ならではの学校生活を過ごす日々を伝える。
- ・卒業生たちとの接点を大切に、6年生にとっても卒業生にとっても、お互いが学び合う場となるようにする。

## 5 本校の実践の特色

- (1) 人もまた自然の一部であるという捉え方と生き物からの学び
- (2) 6年生ならではの学校生活の中で得られる、人と一緒に生きる感動・実感
- (3) 先輩・後輩たちとの絆

## 6 実践にあたっての教師の思い

この仕事に就いてから、何年生の担任であっても「今ここにみんなと一緒に生きている実感」を味わわせたいと思ってきた。人間どうしのつながり方がますます希薄化する昨今にあっては、その思いはいつそう強い。

元奈良女子大学附属小学校の池田小菊先生は、ともに成長の途上にある教師と子どもが、燃えるような思いを持ち必死に生きる中にだけ教育があるということを述べている。

教師として、伸び盛りの子どものに及ばずとも、自身もまた、まだ成長しようとする存在でありたいと思う。

子どもにプレッシャーをかける場面はあるとしても、自分が安泰な状態にいるのではなく、ともに切実に生きる存在でありたいと思う。

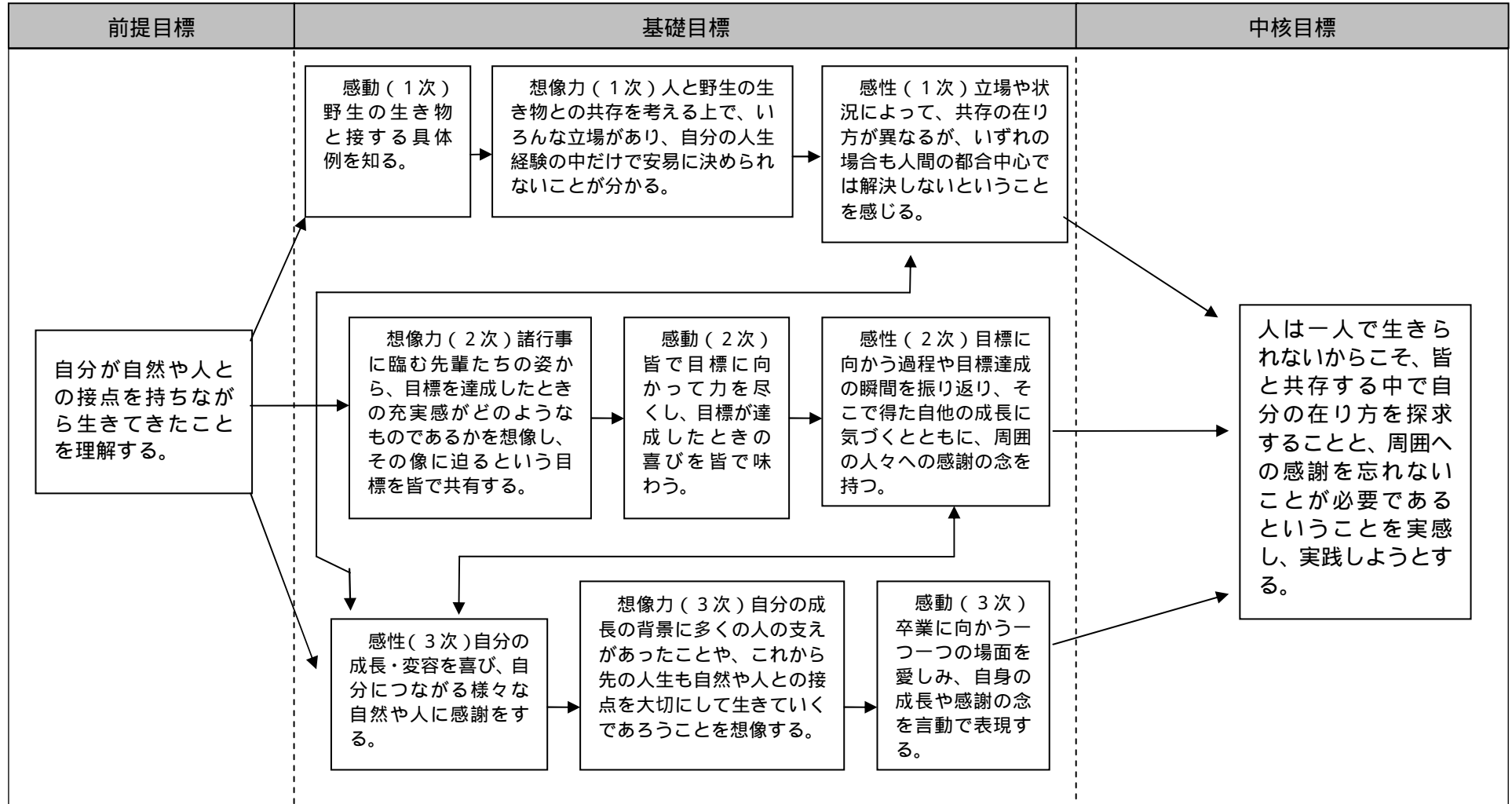
人間どうしのつながりが希薄化しているのは、大人社会がそうさせているからでもある。だからこそ、せめて学校という場において、「今ここにみんなと一緒に生きている実感」を味わわせたいのである。

それは、自他の命を大切にすることに直結すると信じている。

7 目標分析表

	学習活動	感動の体験	感性を育む	想像力の育成	先生の振り返り
事前	今までで、生き物や人との接点で感じてきたこと、考えてきたことを話し合う。	自分の記憶をたどり、楽しかったこと、よかったことを振り返る。	自分が生き物や友達というんな接点を持つことで生きてきたことを考える。	もし、生き物や人との接点がなかったら、どうなっていたかということを考える。	テーマ「人は一人で生きられない」に関心を持つことができたか。
1次 (6時間)	自分の好きなペット・好きな生き物について語り合う。 旭山動物園の動物について考える。  獣害について考える。  「ヒトもサルも愛した写真家」を題材に、人と自然の生き物との共存について考える。 「サルと一緒に生きる早紀ちゃん」を題材に、人と自然の生き物との共存について考える。	自分のことを語り、友達の話を知る。  旭山動物園の動物たちが生き生きとしていることを知る。  獣害で甚大な被害が出ていることを知る。  下北半島で、ヒトとサルとの狭間で迷い、苦悩する写真家の松岡さんの心情を知る。  淡路モンキーセンターでサルと一緒に生きる早紀ちゃんの、生き物への関わり方を知る。	同様の体験に共感し、異なった体験に驚く。  旭山動物園で過ごす動物の側に立って、どういところが心地良いかを考える。  人と自然の生き物との共存が可能か否かについて考える。  サルを駆逐したい地域の人の心情も、サルを大切にしたい松岡さんの心情も、ともに理解した上で、自分ならどうするかを考える。 サルの視線でサルに接し、個々のサルのことをとてもよく理解している早紀ちゃんに共感する。	同様の体験への共感、異なった体験への驚きのいずれであっても、生き物への接点が誰にもあることを考える。 動物の側に立って、ペットとして飼われる立場と野生で生きる立場、そしてその中間とも言える動物園で生きる立場のそれぞれについて考える。 農作物を荒らされる人、生活を脅かされる人にとって、自分たちに被害を及ぼす動物がどう映るかを想像する。 松岡さんが苦渋の決断をして地域の人に協力することにした、その心情を想像し、人が便利・効率を優先させればさせるほど人と自然の生き物との共存が容易でなくなることを考える。 なぜ、早紀ちゃんがサルと気持ちを通わせ、一緒に生きることができるのかを考える。	自分の生き物観を語り、友達の生き物観に関心を持つことができたか。 人に飼われる動物の側に立って想像できたか。  獣害の影響を受ける人の立場で考えられたか。  松岡さんの苦悩を想像し、自然の生き物との共存について考えられたか。  早紀ちゃんのサルとの関わり方から、自然の生き物との共存について考えられたか。
2次 (10時間)	運動会をとおして、「人と一緒に生きている私」について考える。 連合体育祭をとおして考える。 修学旅行をとおして考える。 音楽会をとおして考える。 1・2学期をとおして考える。	運動会・連合体育祭・修学旅行・音楽会等で友達や先生と同じ目標を持ち、その達成に向けて一緒に力を尽くし、一緒に成果を喜ぶ。 事後と一緒に振り返る。	先輩たちの映像を見ることで友達や先生と同じ目標を持ち、平坦ではない道のりを一緒に越えていこうと感じる。 学びを共有したり、周囲への感謝の念を持ったりする。	目標にした先輩たちの表情や涙の意味を想像し、自分がその舞台に立ったときに同じ心情になることで、時空を越えた一体感を持つ。	目標や感動を共有できたか。 振り返る場面で、自分の成長・変容に気づき、周囲への感謝ができたか。
3次 (3時間)	小学校生活を終わようとしている自分を見つめ『いろいろな生き物』『いろいろな人』『いろいろな私』と一緒に生きる私』を考える。	卒業式のセリフ作りや練習をしながら、小学校生活を振り返る。	成長・変容した自分を見つめ、周囲への感謝の念を持つ。	自分の成長の背景に、多くの人の支えがあったことを想像する。	自分の小学校生活を振り返って、自分の成長・変容に気づき、周囲への感謝ができたか。
事後	「人は一人で生きられない」をテーマに学習してきたことを振り返る。	学習を終えてのまとめを書く。	「人は一人で生きられない」ということについて考える。	自分の中学校生活にどうつながるか、自分たちと共通の体験を持つ先輩・後輩とどうつながりを持つかを考える。	自分の考え方、次へのつなげ方を明確にできたか。

8 目標構造図



(凡例) 感性(1次):「 」は指導の順路、「感性」は指導の観点が「感性を育む」、「(1次)」は学習活動が「1次」であることを示す。

## 9 事前の教員研修と指導の概要

## (1) 事前の教員研修(実施の時期については、「(2) 指導の概要」の中に明記)

研修内容	
a	旭山動物園にかかわる資料を読み、可能であれば現地を視察する。 ・生き物本来の姿が見える飼育・展示の工夫を知り、映像にとって子どもに伝える。
b	歴代の6年生の、運動会・連合体育祭・修学旅行・音楽会等での様子が分かるDVDを作成する。 ・その場面に注ぐ先輩たちの思い、6年生としての誇りを見せ、自分たちが迫るべき目標にさせる。

## (2) 指導の概要(全19時間)

内 容	
事前	今までで、生き物や人との接点で感じてきたこと、考えてきたことを話し合う。
1次 (6時間)	<p>生き物として他の「生き物」と一緒に生きている私</p> <p>1 私のペット・好きな生き物 ・自分のペット・好きな生き物について語り合う。(1時間) <span style="float: right;">教員研修 a</span></p> <p>2 旭山動物園の生き物たち ・旭山動物園の生き物たちの様子を見て、動物にとっての居心地の良さとは何かを考える。(1時間)</p> <p>3 イノシシ・サル・シカに困る人々 ・獣害によって農作物を荒らされたり、生活を脅かされたりしている人々がいる実態から、野生の生き物が必ずしもかわいがったり、ながめたりする存在ではないことを知り、野生との共存が可能か否かを考える。(1時間) <span style="float: right;">指導実践 p10~p12</span></p> <p>4 ヒトもサルも愛した写真家 ・野生のサルと地域の人との狭間で苦悩する写真家松岡さんの立場になって、自分ならどうするかを考え、野生との共存の在り方について話し合う。(2時間)</p> <p>5 サルと一緒に生きる早紀ちゃん ・淡路モンキーセンターの早紀ちゃんが、野生のサルと適度な距離をとりながらサルの視線でかかわっていることを知り、野生動物との共存の可能性を考える。(1時間)</p>
2次 (10時間)	<p>人として「人」と一緒に生きている私 <span style="float: right;">指導実践 p13~p16</span> <span style="float: right;">教員研修 b</span></p> <p>1 運動会で見つけた「『人』と一緒に生きている私」 ・練習が始まる前に、歴代の6年生の姿をDVDを見て、6年生として運動会に臨む意味を考えたり、目標を持ったりする。(1時間) ・運動会に至る過程や本番で気づいた自他の成長・変容について話し合う。(1時間)</p> <p>2 連合体育祭で見つけた「『人』と一緒に生きている私」 ・練習が始まる前に、歴代の6年生の姿をDVDを見て、学校の名を背負って連合体育祭に臨む意味を考えたり、目標を持ったりする。(1時間) ・自他の成長・変容について話し合う。(1時間)</p> <p>3 修学旅行で見つけた「『人』と一緒に生きている私」 ・準備や学習が始まる前に、歴代の6年生の姿をDVDを見て、6年生として修学旅行に臨む意味を考えたり、目標を持ったりする。(1時間) ・自他の成長・変容について話し合う。(1時間)</p> <p>4 音楽会で見つけた「『人』と一緒に生きている私」 ・練習が始まる前に、歴代の6年生の姿をDVDを見て、6年生として音楽会に臨む意味を考えたり、目標を持ったりする。(1時間) ・自他の成長・変容について話し合う。(1時間)</p> <p>5 1・2学期に見つけた「『人』と一緒に生きている私」 ・1・2学期を振り返り、これまでの生活の中で気づいた自他の成長・変容について話し合う。(2時間)</p>

3次 (3時間)	私として「私」と一緒に生きている私 1 私の中にいる「いろんな私」 ・自分を客観的、かつ多角的に見て、自分が一面的でなく、場面や状況によっていろんな感じ方・考え方・行動のしかたをしていることに気づく。(1時間) 2 「いろんな私」を見る私 ・上記の1で気づいた自分を更に客観的に見て、そうした「いろんな自分」が入学時や1年前と比べて大きく成長・変容していることに気づく。(1時間) 3 「いろんな生き物」「いろんな人」「いろんな私」と一緒に生きる私 ・成長・変容した自分が自然環境・社会環境の中で生かされていることに気づき、感謝の念をもつ。(1時間)
事後	「人は一人では生きられない」というのはどういうことか話し合う。

## 10 指導実践

1次	ヒトもサルも愛した写真家
----	--------------

## (1) 第4時

## ア 本時のねらい

サルと地域の人との狭間で苦悩する写真家の松岡さんの立場に立って、自分ならどうするかを考えるとともに、野生の生き物と人との共存が難しい課題であることを知る。

## イ 指導のポイント

## (ア) 感動の体験

下北半島で、ヒトとサルとの狭間で迷い、苦悩する写真家の松岡さんの心情を理解させる。

## (イ) 感性を育む

サルを駆逐したい地域の人的心情も、サルを大切にしたい松岡さん的心情も、ともに理解した上で、自分ならどうするかを考えさせる。

## (ウ) 想像力の育成

松岡さんが苦渋の決断をして地域の人に協力することにした、その心情を想像させ、人が便利・効率を優先させればさせるほど、人と自然の生き物との共存が容易でなくなること考えさせる。

## ウ 準備物 NHK道徳ドキュメント「サルもヒトも愛した写真家」DVD

## エ 先生の準備(事前の打ち合わせと教員研修)

## (ア) 下北半島のニホンザルについての情報収集

下北半島のニホンザルについて、インターネットや書籍で調べる。

## (イ) DVDの視聴

DVDを見て、どの場面で止めて、どういう発問をするかを考える。

## オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	1 下北半島のニホンザルの写真を見て、野性としては世界最北端に棲むことや天然記念物として大切にされていることを知る。	

展 開	<p>2 DVDを見て、登場する三者に三様の立場や心情があることを想像する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・野性のサル 山野に生息するが、人里に下りてきて農作物を荒らす。サルが生きる環境を人間が奪ったんだから、サルは悪くない。</li> <li>・地域の人々 サルに生活を脅かされている。生活することができないようなら、サルを駆除しようとするのも仕方がない。</li> <li>・松岡さん 写真家として下北半島のサルを撮り続けていて個々に名前をつけるほど親しいが、サルに困っている地域の人々からサル駆除の協力依頼を受け、両者の狭間で苦悩している。</li> </ul> <p>3 松岡さんの立場で考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">                 自分が松岡さんの立場なら、地域の人々に協力しますか。             </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>協力する                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・駆除するのは悪いサルだけだから、いい。</li> <li>・人間が生活することが第一だ。</li> <li>・協力しないということは、松岡さんも地域に住めないということだ。</li> </ul> </li> <li>協力しない                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・サルは人間の都合で里まで下りてくることになったのに、人間の都合で殺したりしてはいけない。</li> </ul> </li> </ul> <p>4 苦渋の決断として協力することにした松岡さんは、どんなことを考えたか想像する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・心の中でサルに謝りながら協力したと思う。</li> <li>・人間として、人間に協力しなければならぬと考えたと思う。</li> <li>・生きていれば、したくないことでもせざるを得ないことがある、と思ったのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サルは人間の山林への進出によって棲み場やエサを奪われていること、地域の人々は生活自体ができなくて本当に困っていることを、客観的な事実として伝えるが、その際、教師はどちらにも加担しない立場であることが分かるよう留意する。</li> </ul>
	ま と め	<p>5 松岡さんの判断を知って、再度、自分ならどうするか考える。</p>

カ 先生の振り返り(次の実践に向けて)

- (ア) 前年度の実践でサルの立場に立った意見が多かったので、今年度は、獣害の情報を前時に入れた。その結果、意見が分かれ、より現実的な考えが出たのは良かった。
- (イ) 道徳の学習として扱い、価値項目を「生命尊重」「役割・責任」としたが、二つの価値が相反することになり、価値の良さに浸らせる授業にはならなかった。道徳として扱うなら、松岡さんの判断に皆で価値を見いだす流れにする方がよかったと思われる。

## 「ヒトもサルも愛した写真家」～自分がその立場なら～ 児童の反応一覧(一部抜粋)

考えの変化	児童の感想	賛成	反対
協力しない	駆除するサルを自分で判断するのは、サルがかわいそうでできない。多くのお金と労をかけて野菜を作っているのにサルに食べられてしまう人は本当に困っていると思うけど、どこかで施設を作って保護できないか。	30	1
協力しない	人のせいでこうなったのだから、協力したくない。松岡さんはサルを見分けることができすごい。私だったら、サルがかわいそうで、やはり協力できない。	20	6
協力しない	サルの写真を撮らせてもらってきたのだから、サルを裏切れない。松岡さんが自分でサルを引き取ってしつけをして野生にもどす。	16	14
協力しない	松岡さんはもともとサルを殺す気で写真を撮っていたんじゃないから、協力しない。自分になついていたサルをつかまえることに協力した松岡さんはすごくかわいそうだった。辛かっただろうなあ。	26	2
分からない	私だったら、子どものように大切にしてきたサルを裏切るのはいやだという気持ちの方が強い。松岡さんは役場から電話をもらって数秒後に「協力します。」と返事をした。その数秒の間にどんなことを考えたのだろう。	25	5
分からない	山にいるサルを全滅させることになるかもしれないから、協力しない。松岡さんは迷っただろうなあ。	16	11
協力しない	サルが畑を荒らすようにしたのは人だ。人なら自分の子が悪いことをしたからと言って殺すと言われたら嫌なはずだ。でも、松岡さんの判断は正しかったと思う。人や他の動物が生きていくには悲しいことも喜びもたくさんあると思った。	26	3
協力する	人がサルを殺すのは、サルが人のものを奪うより悪い。でも、今駆除しないと被害が広がるから、協力しないと仕方ない。	16	11
協力する	サルは山のえさがなくて仕方なく畑の作物をとっている。でも、松岡さんの協力した方法なら、サルは絶滅しないから、それでもいいと思った。	16	11
協力する	松岡さんは本当は協力したくない。でも、松岡さんは人だし、地域の人被害を見ていると状況がきびしいので協力したと思う。また、協力しないと写真家として生きていく道がなくなる。人にはしたくなくてもしなければならぬことがあると思う。	29	2
協力する	名前までつけて愛してきたサルを駆除する手伝いをするのはいやだ。でも、自分が協力しなくてもサルは駆除される。悪くないサルまで殺されるのはかわいそうだ。松岡さんはハナピがわなに近づいてきたとき、「入るな。」と願ったと思う。	28	0
協力する	地域の人自分たちが一生懸命作っている食べ物をとられて、悲しくめいわくしていて、サルをとてにもくんでいる。私が松岡さんの立場だったら、地域の人許せない気持ちが分かるから、協力する。	16	10
協力する	サルも大事だけど、人の方が被害が多いので、協力する。	9	14
協力する	なぜなら、自分もヒトだから。サルからヒトへの被害はあるけど、ヒトからサルへの被害はない。でも、松岡さんの立場になったら、ハナピを殺すことはできない。つらかっただろうな。	22	5
分からない	いくら愛したサルでも人や畑に手を出したら許さない。ちょっとぐらいサルに痛みを知らせたっていい。でも、松岡さんのサルを思う気持ちに感激した。ぼくも動物を大切にしたい。	18	8
どちらでもない	「協力する」と言っておいて、サルが捕まったら「これは悪くない」と言う。サルを殺すんじゃないでせめてその場所を動物園にして世話してやったらいい。	19	6
どちらでもない	サルを殺したら、写真が撮れない。サルは食べないと生きていられない。地域の方は畑の食べ物をとられたら生きていけない。	15	9

「考えの変化」は、「ヒトもサルも愛した写真家」の前半部(出来事の概略の把握)と後半部(松岡さんの行動を知った後)とで、「村人に協力するか否か」の観点での考えの変化を表したものである。

「賛成」「反対」の数は「村人に協力する(しない)理由」についての賛否の数を表す。賛否どちらでもないとする反応もあるので、賛否の合計は必ずしも児童数(35人)にならない。



2次	人として「人」と一緒に生きている私
----	-------------------

## (2) 第1時

## ア 本時のねらい

運動会での目標達成に向けて皆で努力を重ね、得られた成果と一緒に喜ぶことをとおして、自他の成長に気づき、皆と生きていることを実感する。

## イ 指導のポイント

## (ア) 感動の体験

より高次の目標を持って諸行事をやり遂げた感動を共有させる。

## (イ) 感性を育む

先輩たちの姿を追いかけて、仲間と一緒に努力を重ねて、ともに成長させる。

## (ウ) 想像力の育成

自他共に成長した背景に、いろいろな人のおかげがあることを理解させる。

## ウ 準備物 感想をまとめたプリント

## エ 先生の準備(事前の打ち合わせと教員研修)

(ア) 運動会後に書いた感想をまとめる。

## オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	1 本時は、行事を終えた感想を読み、心に残ったことを述べ合う時間であることを知る。	
展 開	2 感想をまとめたプリントを黙読する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">心に残ったのはどの文章ですか。それはなぜですか。</div>	
	3 感想を述べ合う。 ・僕もピラミッドのタワーの土台だったから、この気持ちがよく分かる。 ・ピラミッドの一番上のAさんがこんな思いで頑張ってくれたと思うとうれしい。 ・連合体育祭に気持ちを向けなければならぬ。	・自他の成長を認める発言は全て認めるが、とりわけ、感謝の意の表れた内容、次に向けていっそう高次の目標を持つようとする内容を高く評価する。
ま と め	4 次の行事に意識を向けることを伝える。	

上記の実践は、運動会の例であるが、連合体育祭、修学旅行、音楽会でも同様の進め方をする。そのパターンは、以下の二つのことを中心に行う。

先輩たちの姿を見せて、目標を共有する。

行事に至る過程や本番でのことを振り返って、自他の成長・変容に気づく。

の先輩たちの姿に学ぶことの価値は、高い目標を具体的に見せて、みんなでそれに迫る(それを越える)という目標を共有することにあるが、これは結果として、後輩たちへの意識を形成することにもなる。つまり、自分たちが先輩たちを追いかけてようとしている、その過程そのものを、後輩たちは見ているのであり、次の世代が自分たちを目標にする、ということが同時に意識されるからである。

の過程や本番を振り返る、という作業は、どこでもやっていることであるが、自分だけでな

く友達の記述を読むことで、他者理解ができるとともに、「こういう視点でこういう捉え方をするものなのか。」と、振り返り方そのものを充実させることにつながる。また、これを繰り返すことで、自他を見つめる目は確実に精度を増す。

この実践での教師の仕事は、先輩たちの映像を見せることと記述をまとめることだけであるが、それだけでも、6年生は、自分がいろんな人とのつながりの中で生かされている、という強い意識を持つことができる。ただし、行事自体が充実していることが大前提である。行事の内容やそこに至る過程が充実しているからこそ、児童はそこから価値を見いだすことができる。

以下に、各行事での獲得させたい価値や到達させたい域を記するとともに、児童の記述(部分抜粋)を紹介する。

なお、ここで示す「獲得させたい価値・到達させたい域」とは、「人は一人では生きられない」というテーマに即した意味で挙げるものである。各行事に学習内容に関わる価値も当然あるが、ここでは割愛する。

カ 各行事で「獲得させたい価値・到達させたい域」及び児童の振り返り

#### 【運動会】

運動会で獲得させたい価値・到達させたい域

- ・学校全体のために自分にできることをやろうとする。
- ・青組の1～6年生のために、競争競技で全力を尽くし、応援する。
- ・表現演技で、「今まで生きてきた自分」「今生きている自分」を精一杯表現する。

児童の感想(部分抜粋)

- ・プログラム一番の体操「みんなでワッハッハ」では、体育委員会代表として朝礼台の上で体操させてもらいました。1年のころからあこがれていた場所に立たせてもらってうれしかったです。「ぼくはあこがれていた場所に今立っている。6年以下の人たちに『6年になったら朝礼台の上で体操したい。』と思わせる体操をしようと思いました。
- ・騎馬戦の前に入場門の所で、3組全員で円陣を組んで「青組優勝するぞ!」と団長が言って、みんなで「おーっ!」と言いました。本当にここにいる私たちが「奇跡」じゃないかと思いました。最後の運動会でクラスのみんで円陣を組んで本当に楽しかったです。これだけで涙が出そうになりました。そして、ぜったい騎馬戦に勝とうという気持ちが強くなりました。結果は青組の勝利でした。組別優勝も青組でした。赤組と一点差でした。一つ一つのことが優勝につながっていたんだと思います。その一つでも欠けていたら優勝できませんでした。たくさん仲間がいて、先生がいて、家族がいて、本当に最高の運動会でした。
- ・教室にもどると「がんばれ by 中2」と書かれていました。中学1年生の先輩だけでなく、2年生も見に来てくれるのが、とてもうれしかったです。私も今日のことをいい思い出にして、中学1年になっても2年になっても後輩たちの組体操を見に来たいです。
- ・最後の運動会で、何かがかわったようでした。全員が一つのことに必死になって、全員で感動の物語をつくれるように、力を発揮できたときに、初めて自分たちの人生の原点から一步ふみ出せたような気がしました。自分の気持ちの持ち方を変えて、全員で新しい世界を切り開けたことが、ぼくが思った「なにかがかわった」ということです。

#### 【連合体育祭】

連合体育祭で獲得させたい価値・到達させたい域

- ・緑が丘東小の名を背負っていることに自負と誇りを持ち、それを言動・演技で体現する。
- ・三木市内の6年生の仲間と真剣勝負で競い合う中で、半年間、仲間とともに培ってきた力を発揮する。

## 児童の感想(部分抜粋)

- ・(前日の記述から)運動会が終わって最後にみんなで青ぼうを投げて受け止めた、あの瞬間から、連合体育祭は始まっていました。明日、緑が丘東小学校の看板を背負って他校の人たちと競い合います。明日参加できない人たちのためにも、いい結果を報告できるよう全力をつくしたいです。
- ・いよいよリレー決勝です。すごく緊張しました。でも、先生の「熱く冷静に」という言葉を思い出しました。一つ一つバトンが確実にわたっていき、C君からバトンをもらいました。本当に全力を出しつくしました。ゴールはどちらか分からなくて、私たちが勝っていてほしいというのりでした。でも、結果はD小の優勝でした。すごく責任を感じました。私がおもっと速かったら、とすごく悔やみました。でも、みんなは「Eちゃん、めっちゃ速かったやん。」「Eちゃんはがんばった。」と言ってくれました。私はこんな友達をもって、すごく幸せだと思いました。
- ・6年生みんなでバンザイをしたところから、修学旅行が始まりました。今日また男子と女子の距離が一歩ちぢまったような気がします。楽しい修学旅行にしたいです。

## 【修学旅行】

## 修学旅行で獲得させたい価値・到達させたい域

- ・仲間とともに学ぶことの価値、一緒に時間を忘れて遊ぶことの楽しさを味わう。

## 児童の感想(部分抜粋)

- ・この2日間は、仲間と一緒にすごせて、幸せな時間でした。自分の意見も言うけど、友だちの意見も聞いて、「じゃあ、こうしよう。」とみんなで相談しました。それが「仲間」ということなんだと思いました。私が室長会議から帰って、みんなに「ちょっと聞いて。」と言うと、私の周りにあつまって、よく話を聞いてくれました。
- ・お土産は少しずつ出し合って、(インフルエンザで修学旅行に来られなかった)A君のお土産を買いました。「絆」というストラップと、もみじまんじゅうになりました。34人と先生で買ったお土産をよろこんでくれたらいいなと思います。
- ・修学旅行は「友達」が重なって成功したものと言えます。学習でも友達と一緒に学ぶから楽しい。バスも友達がとなりにいるから、移動時間が楽しい。そして、友達と遊ぶから楽しい。ぼくはそのようなことを学びました。

## 【音楽会】

## 音楽会で獲得させたい価値・到達させたい域

- ・学校全体、学年全体のために自分にできることをやろうとする。
- ・合奏や合唱で、「今まで生きてきた自分」「今生きている自分」を精一杯表現し、しかも、それが運動会の時点と比べて、1ヵ月半の間に更にグレードアップしていることを伝える。

## 児童の感想(部分抜粋)

- ・(前日の記述から)教室で去年の6年生の音楽会を見ました、やっぱりすごいなーと改めて思いました。去年の私は「どれだけ歌ってもやっぱり6年生にはかなわないなー。」と思っていました。今年、6年生である私は、そんなふうの下学年の子の心に残ってほしいと思うし、歌を覚えてくれるぐらい、いい歌にしたいなあと思いました。
- ・5時間目に、魂をこめて、通しで力いっぱい歌いました。明日、みんなの前で歌っているのを想像して歌いました。その時、ものすごい世界が見えたような気がしました。A先生、B先生、そして、C先生のおかげで「6年ならではの世界」を見ることができました。私は、去年の1年間も忘れないようにするけど、この1年間も絶対に忘れない1年間に、もうなっています。

- ・アンコールをうけたとき、ずっとここにいたい、卒業したくないと思いました。E君のスピーチどおり、運動会のことや修学旅行で原爆について学んだこと、男子女子関係なくあそんで、楽しかったことを思い出しました。その後、6年3組だけ音楽室に集まって「遠い日の歌」を歌いました。男子が全員音楽室に集まってくれて、とてもうれしかったです。そして、ちょっと悲しかったです。先生が「卒業に近づいた。」と言ったからです。はじめは6年の世界なんて行けないと思っていたけど、5年生のときのことをのりこえて、すごくいい気持ちになっています。今、6年3組でよかったと心から思います。
- ・私たちが勇気を出してがんばってきたけど、その勇気を出すきっかけになったのは全部先生たちです。それも、すべて先生たちがするのではなく、ここまでするから、あとは自分たちでここまで来なさい、というやり方でやってくれたから、あんなに保護者を泣かせるまでの歌や合奏ができたのだと思います。
- ・歌になりました。このメンバーで歌うときは卒業式だと思うと泣きそうになったけど、泣く分歌いたいと思いました。歌っていてすごく気持ちよくて、そのときに6年生の世界ってこういうことかなと思いました。全部歌いきったと思ったら、アンコールの手拍子がきました。先輩たちに並んだと思うと涙が出ました。先生が台に立って「ここから(先輩たちを)こえていこう。」と言ったとき、夢がかなうんだなと思いました。歌っていて、本当にみんなで生きているんだなと思いました。すごく満足でした。音楽会で燃えたのは初めてです。私は音楽会が好きです。すごく大切な音楽会でした。

#### キ 先生の振り返り(次の実践に向けて)

- (ア) 子どもたちは昨年度、自然学校も含めた学校生活で、充実感や達成感を十分に得られていないところがあったが、6年生の生活を経る中で、変容していく自分(達)に気づいていった。例年の6年生も自分(達)の味わった感動を言葉に表してきたが、今年度は、その変容ぶりが顕著な分だけ、いっそう印象深かったものと思われる。
- (イ) ただし、次年度の6年生には、その6年生にしかないドラマが生まれるはずであり、似たことをやったとしても、別の言葉が生まれるのではないかと思う。

#### 11 実践を終えて

##### (1) 先生の振り返り

水谷修氏は言う。

「自分について考え、悩み、語ることは、じつは意味のないことです。なぜなら、自分とは、自然や世界、他人など、他者との関わりの中でしか見ることができないものだからです」人は一人では生きられない。しかし、自然や人と一緒に生きるなら、確たる自分を形成していくことはできる。その過程は、自他の命の大切さを実感することそのものに相違ない。今年の6年生たちも、自然や人・自分と一緒に生きる中で、自他の命の大切さを実感してきたと考えている。

##### (2) 今後の課題

###### ア 授業実践上の課題

1次の「生き物として他の『生き物』と一緒に生きている私」については、他の学級でも学級の状況に合わせる形で実施できた。一般化することも可能である。

2次以降は、行事の創りあげ方や教師の働きかけ方等についての説明が必要であるが、すぐに一般化できるとは考えにくい。

毎回、6年生がほぼ同様の姿を見せ、中学生・高校生になっても後輩たちの応援に行こうと思うのはなぜか。そこには、何かしら説明可能な原理原則があるはずだと考えるが、それを分析し理論化するには至っていない。

###### イ 家庭・地域との連携についての課題

行事は家庭・地域との連携なしには成立しない。本実践は諸行事を充実させることが大前提になっている。

運動会や音楽会などに限らず、卒業式の日まで、家庭・地域の満足・納得を得られる行事にしていかなければ、児童がその過程や本番で自他の成長・変容に気づくという成果も得られない。

#### ウ 学校の組織運営上の課題

野生の生き物との共存について扱ったり、諸行事を充実させたりすることについては、かなり一般化できると思われるが、中学生とのつながりについては、多分に教師のパーソナリティに依拠している。

6年生の担任をする機会の多い教師がいて、その教師が先輩・後輩の間柄を意識的に形成しようとするのが条件になってくるからである。更に、運動会等で後輩たちを応援したくなるような魅力が小学校側になれば、縦のつながりは望みにくい。

小中連携の重要性が叫ばれる昨今にあって、本校と中学校の間には、情でつながる良好な「連携」があるが、一般化するには、その条件を組織として満たしていくことが求められる。

#### 12 参考・引用文献

- ・梅野圭史 『教育のあゆみ』(「自然学校における体験活動のあり方を考える」) 兵庫教育大学附属小学校教育研究会 1993
- ・NHK道徳ドキュメント『サルもヒトも愛した写真家』DVD 2005
- ・鎌田實・水谷修 『だいじょうぶ』 日本評論社 2009